

● 応募方法 ●

〈対象〉

厚別区にお住まいの方。

〈あて先〉

はがきに、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・広報さっぽろ区民のページに対するご意見・ご感想を記入の上、

〒004-8612

厚別区役所総務企画課広聴係

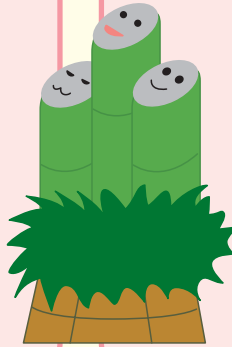
までご応募ください（1人1通のみ有効）。区役所への郵便物は、郵便番号と課係名を書くだけで届きます。

〈締め切り〉

1月17日（金）の消印まで有効。

正解者の中から抽選で50人に、ウィズユーザーカード（1,000円分）を差し上げます。

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。なお、クイズの解答は2月号に掲載します。



● クイズの解答方法 ●

問題の①～⑤の答えを下のマスそれぞれの番号のところに当てはめてください。

赤いマスに入る文字を上から順に読むと、厚別区に関する5文字の言葉が出来上がります。これがクイズの答えです。

ヒント：札幌市青少年

①	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
②	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
③	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
④	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
⑤	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

厚別の地名豆知識

普段何気なく使っている地名ですが、地名にはそこに住んでいた人たちの思いやさまざまな由来があります。

厚別

語源はアイヌ語の「ハシ・ペツ」（かん木の中を流れる川）とも「アツ・ペツ」（オヒョウダモのある川、または魚のとれる豊かな川）ともいわれています。現在のJR厚別駅が、明治二十七年に開業したときに駅名として使用されたのが始まりとされています。

信濃

厚別の開拓は、長野県出身者が現在のJR厚別駅周辺に入植したことに始まります。当時長野県は「信州信濃」と呼ばれていました。小学校（当時は簡易教育所）や神社に「信濃」という名称が付けられ、現在までその名をとどめています。

旭町

現在は地名として残されていませんが、札幌の副都心が整備されるまで、国道12号と停車場通との交差点（厚別中央3条2丁目）付近からJR厚別駅にかけては、厚別の中心としての役割を果たしてきました。国道沿いに松の太木があり、人々がその付近を「朝日松」と呼んでいたのが由来といわれています。

野幌

「野幌」という地名は、以前は「野津幌」と呼ばれ、その範囲は現在の厚別区、江別市、

北広島市にまたがる広大な地域でした。アイヌ語の「ヌプ・オル・オ・ペツ」（野の中の川）に由来するといわれています。

大谷地

大谷地の開拓は明治十八年ごろに始まりました。当時「大谷地」と呼ばれていた地域は、厚別川と月寒川に挟まれた地域を含む広大な低湿地帯でした。低湿地のことを「谷地」と呼ぶことから地名となったものです。

山本

山本地区に最初に農場を開いた山本久右衛門の子、山本厚三が、道路や排水路を整備し、広大な田畑の開墾を成し遂げた功績をたたえ、その姓を取り名付けられました。「厚別もち」と呼ばれる良質のもち米の生産地だったそうです。

ひばりが丘・青葉・もみじ台

急増する人口に伴う住宅不足の解消策として、区内では昭和三十三年から、ひばりが丘団地をはじめとする大規模団地の造成が始まりました。「ひばりが丘」は市民からの公募により、春にひばりのさえずりが聞こえる丘だったことから名付けられました。その後完成した団地にも、春の「ひばり」に対し、夏の「青葉」、秋の「もみじ」という季節にちなんだ名称がそれぞれ付けられました。